

# みんなの顔が見えるまち



人権シリーズ vol.16

## フォーラム

### 「人権教育の創造」 「子どもたちに確かな未来を」

8月10日(金)、アストくにさきで、県内の人権教育関係者が約900名参加して、フォーラム(社)大分県人権教育研究協議会主催)が開催されました。

「人の価値」などの詩の作者、江口いとさんによる「私の歩み来し道」、また江口久さんによる「共に生きる社会の実現をめざして」と題し、記念講演が行われました。実体験に基づいた差別の現実をめぐり出す話に、会場は聞き入っていました。

また、人権のステージでは、小原小学校家庭教育学級の皆さんが会場と一体となり、手話を使ったコーラスを披露しました。



▶講師の江口いとさん(上)、久さん(下)親子



▲超満員のアストホール

午後からは分散会が行われ、小学校、中学校、高校、社会教育の4分野でそれぞれ活発な意見交換が行われました。



▲小原小学校家庭教育学級の皆さんによるステージ

## 中学生人権コンサート「心に刻む」

先月号でお伝えしました人権バンド「願児我楽夢」による中学生人権コンサート、参加した国見中学校生徒の皆さんや保護者の方の感想を一部ご紹介します。

### 《生徒の感想》

- 差別された人の悲しさや世の中のことがいろいろと分かりました。その中でも友達の誕生日会を楽しみにしていた子が、部落差別のため呼んでもらえなかった、という話が一番印象的でした。何も悪いことはしていないのに呼ばれないなんて…。差別はあってはならないと強く思いました。
- 楽器の演奏や歌声がとてもすばらしかったです。歌の内容は部落差別を受ける人や、障がいを持つている人、被爆者の方のことなどで、とても深く考えさせられました。自分では経験したことのない辛さを味わう人が、今でもいるということに気付かされました。障がいを持っている人が「かわいそう」と言われることが嫌で、「一つの個性」としてとらえた生き方をしていて、とてもたくましいなあと思

いました。

### 《保護者の感想》

- 人として、生きる勇気と楽しさを改めて感じさせてくれました。
- 辛い、悲しい思いをされた人々の訴えは、ずしんと心に響きました。
- 命の大切さを子どもたちに伝えなければ、大人が手本にならないといけないと思いました。
- 母一人で子育てをされている家庭の大変さはよく分かります。私はそんな家庭を応援したいです。

